岩盤ボーリング柱状図

調査名	一般県道　宇賀安田線　道路改良事業に伴う測量・地質調査・設計業務委託（単独）
事業・工事名	
調査目的及び調査対象	道路　掘削・掘削のり面

ボーリング名	Br2-1	調査位置	広島県三次市甲奴町品			北緯	34° 40’ 18.6447″
発注機関	広島県北部建設事務所			調査期間	令和5年 3月16日～ 令和5年 3月20日	東経	133° 01’ 51.0213″
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	TP 532.49m	角度	180°（上）90° 0°（下）0°	方向	0°北 90°東 180°南 270°西	地盤勾配	32°（水平0°・鉛直90°）
総削孔長	16.00m	使用機種	試錐機	東邦DO-C			
			エンジン	ヤンマーNFD12-FK	ポンプ	東邦BG-3C	

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	工学的地質区分名（模様）	工学的地質区分名	色調	風化の程度	変質の程度	硬軟	コア形状	割れ目の状態	岩級区分	コア採取率（%）／最大コア長 cm／RQD [%]	記事	孔内水位／測定月日	標準貫入試験 深度－N値図	N値	深度	打撃ごとの貫入量	50回の貫入量	自沈時の貫入量	原位置試験	室内試験	削孔状況 削孔月日	削孔速度（cm／h）	孔径・孔壁保護	給圧 (MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	削水・送水量 (L／min)	排水量 (L／min)
1					赤褐	w5	h4	E	Ⅶ	d		[0](100)	固結度は低く、岩組織および割れ目の存在は不明瞭である GL-3.0mまで砂質粘土状コアで採取される GL-3.0m以深、砂質土状コアで採取される 岩級区分：DL			8	1.15	8/300					100	φ66打込みによる／打込み		0.0	0	0.0	W1／0	0
2																	1.45													
3																13	2.15	13/300					55	ダブルコアチューブ／MC						
4					～												2.45													
5																19	3.15	19/300					80		10.0	100	0.1	W3／12	11
6																	3.45													
7				Rtf	黄褐						D					15	4.15	15/300												
8																	4.45						90							
9					～											21	5.15	21/300							20.0	200	0.1	W3／11	10
10																	5.45													
11																18	6.15	18/300					60		5.0	200	0.1	W3／11	10
12																	6.45													
13																29	7.15	29/300												
14						w4	h3	D	Ⅵ	d							7.45						80							
15					淡灰											25	8.15	25/300							10.0	200				
16																	8.45						90							
17					～											20	9.15	20/300												
18																	9.45						110							
19																24	10.15	24/300									0.1	W3／9	8
20																	10.45						55		0.0	150				
21																22	11.15	22/300												
																	11.45						70							
																26	12.15	26/300												
																	12.45						80							
																19	13.15	19/300							10.0	200	0.1	W3／8	7
	518.99	13.50															13.45													
																50以上	14.10	50	100											
	518.14	14.35		Rtf	流紋岩質凝灰岩	淡灰	w4	h3	D	Ⅵ	d	D	砂状コアで採取される 固結度は高く、岩組織、割れ目の存在は明瞭である 手で割れることもできるが、一部硬質な礫状として残る 岩級区分：DH(軟岩Ⅰ)				14.20		100											
																50以上	15.00	貫入不能					55		20.0	200	0.1	W3／10	9
	516.49	16.00		Rtf	流紋岩質凝灰岩	淡灰	w3	h2	C	Ⅳ	c	CL	見かけ上棒状コアで採取されるが潜在亀裂が発達している 割れ目沿いの風化が進み、ハンマーの打撃により容易に割れる 軟質なものは手で割ることができる コア肌が粗い 土軟硬区分：軟岩Ⅰ		12[12](100)		16.00		貫入不能											

ダブルコアチューブ／MC

ダブルコアチューブ／MC